



島根大学広報誌 広報しまだい

Shimadai

2016.1 vol.27

特集 オールしまねCOCプラス事業スタート
地域未来創造人材の育成を加速する
オールしまね協働事業

板華子さん
〔活躍する卒業生〕

ラフティングで
世界を目指す





採択を受け、10月8日に行われた記者会見。服部学長は、「島根大学では、学生に4年間でしっかりとした学術的な知識や技術を修得していただくとともに、県内企業等に興味をもっていただき、いかに県内に残すかということが課題」と、本事業の必要性を述べました。

特集1 オールしまねCOCプラス事業スタート 地域未来創造人材の育成を加速する オールしまね協働事業

地域の新たな雇用や産業の創出、人材の育成などを目的に新設された文部科学省「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業「COCプラス事業」。島根大学も取り組む、この事業について概略をご紹介します。

COCプラス事業とは

島根大学はこの度、文部科学省の「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業「COCプラス事業」に採択されました。COCとはCenter of Community(地の拠点)の略称です。同省は平成25年度・平成26年度に「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)を募集し、これに採択された全国77の高等教育機関を「地(知)の拠点大学」と認定しました。本事業はこのCOC事業の後継事業です。

COC事業は、大学の使命である教育・研究・社会貢献の各分野において、地域の現状を踏まえながら、地(知)の拠点大学としての基盤を整備するものでした。COCプラス事業は、この地(知)の拠点大学が他の高等教育機関、地方公共団体、企業等と協働し

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①教育学部 伊藤 豊彦教授 7
- ②医学部 磯部 威教授 9
- ③総合理工学研究科 田中 直人特任教授 11

■COC事業レポート 13

■しまだいNEWS 16

記念すべき第1回大会で全国1位を獲得
島根大学医学部サークルが日頃の成果を発揮

■しまだイトピックス 17

■海を越えた島大生 20

■キャンパスチェック 21

■学生プレス研究会 23

■サークル紹介 25

アメリカンフットボール部/卓球部

■島根スサノオマジック紹介・島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント 26

て行う地方創生推進事業を支援するものです。

具体的には地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を支援します。

地域未来創造人材の育成

本学が主幹校として申請し採択された「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」(オールしまねCOCプラス)は、他に島根県立大学・同短期大学部・松江工業高等専門学校などの島根県内すべての大学・高専が参加し、島根県や県内企業と協働して実施します。

島根県内では現在、若年層の県外流出や少子高齢化の進行による若年労働力の減少が課題であり、「ものづくり産業」「IT・情報通信産業」「地域資源を生かした産業」などの、雇用の増加が見込まれる分野で活躍できる人材の育成が求められています。

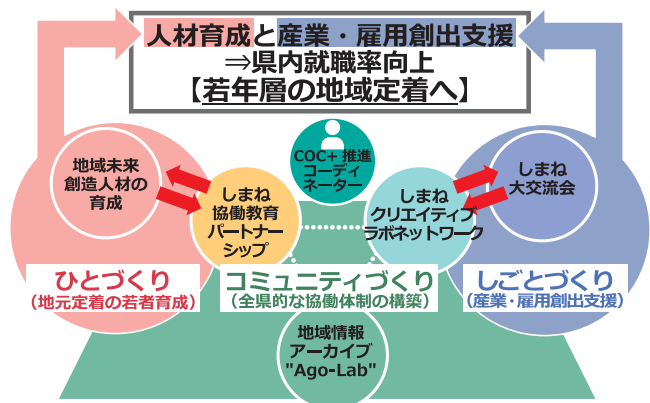
これに対し本事業では、人材育成を中心に「ひとづくり」「しごと

づくり」「コミュニティづくり」という3分野の事業を推進します。

ひと・コミュニティ

「ひとづくり」は、高い「専門性」と協調・協働を基礎とした「社会人基礎力」、主体的に島根での就業や暮らしに価値を見いだせる「地域マインド」、地域に新しい価値を生み出せるような「イノベーション創出力」を有した「地域未来創造人材」の育成を目指して、各校が教育プログラムを実施します。本学ではCOC事業をはじめ、全学的に行ってきたキャリア教育や地域志向教育を基盤として、地域志向型初年次教育科目の必修化や地域志向型キャリア教育の特別副専攻プログラム化に挑戦します。正課外では島根県内の企業について学ぶセミナーや企業訪問を他校と協働実施・強化します。

一方、学生にとって魅力ある産業や雇用も、島根県全体で創出していかなければなりません。「しごとづくり」では、高等教育機関を中心とした県内のステークホルダーが一堂に会する「しまね大交流会」を実施し、それぞれの強み・魅力と課題を共有して新たな産



オールしまねCOCプラス事業概念図

業・雇用創出につながります。

また全県的な協働体制を構築し、「ひと」と「しごと」を結び付けるための「コミュニティづくり」として、県内企業等と学生教育のノウハウを共有する「しまね協働教育パートナーシップ」の設立、情報・知識・技術の自由な交流を行う「しまねクリエイティブラボネットワーク」の構築、様々な地域情報を共有する「地域情報アーカイブ(Ago-Lab)」の開設を行います。

本事業はこれらの事業を、平成31年度までの5年間で実施し、県全体の活力向上と地方創生へ貢献します。

2016.1 vol.27 Shimadai

島根大学広報誌
広報しまだい

- 〈特集1〉 オールしまねCOCプラス事業スタート
地域未来創造人材の育成を加速する
オールしまね協働事業 1
- 〈特集2〉
世界糖尿病デーに、出雲大社御本殿が
ブルーにライトアップ 3
- 〈特集3〉
活躍する卒業生 ラフティング 板華子さん 5

世界糖尿病デーに、出雲大社御本殿がブルーにライトアップ

講演会のテーマは「古事記が伝える『医薬・看護発祥の地』出雲で糖尿病について考えよう」



雅楽の演奏が流れる中、出雲市のLED照明メーカー「Doライト」が開発したライトにより、出雲大社御本殿がブルーにライトアップされました。

インスリンの発見者フレデリック・バンティングの誕生日にあたる11月14日は、「世界糖尿病デー」に指定されており、世界各地の特徴ある建造物がブルーにライトアップされます。

平成27年度は、島根大学医学部附属病院のスタッフが実行委員の中心となり、夕闇の中、出雲大社の御本殿が鮮やかにライトアップされました。また、出雲市内の医療関係者や行政などの協力を得て、境内では講演会やピラティス体操の練習、血糖測定や健康相談、低カロリー食の試食など、糖尿病の啓発を目的とした多彩な行事が行われ、多くの方が参加されました。ここでは、「古事記が伝える『医薬・看護発祥の地』出雲で糖尿病について考えよう」をテーマとした、記念講演会の概要をご紹介します。

講演「糖尿病と出雲」

島根県立中央病院副院長 **伊東 康男**



鳥取大学医学部大学院修了。島根大学医学部臨床教授を経て、現在、島根県立中央病院副院長。日本糖尿病学会専門医、指導医。

糖尿病の患者は右肩上がりが増えて一千万人に近付き、40〜50歳代以上では4〜5人に一人が罹っていると考えられます。網膜症や腎症、神経障害など、深刻な合併症をもたらすことも問題です。糖尿病はインスリンの作用不足で起こる生活習慣病で、運動不足やカロリーの摂り過ぎが主な原因です。

「糖尿病と出雲」と演題をつけましたが、もちろん糖尿病に出雲型などありませんし、他の地域と比べて特に患者が多いわけではありません。しかし、患者数は着実に増えており、血糖値は冬に上がる人が多いので、出雲のような寒い

地域では特に注意が必要です。

私は28年前に出雲に赴任してきたのですが、当時はコンビニもファストフード店もファミレスもほとんどない、独身者には暮らしにくい所でした。その後外食産業が発達して便利にはなりましたが、カロリー過多と栄養バランスの悪さが糖尿病の要因となっています。食事は腹八分目を心がけ、バランス良くいろんなものを食べ、油分を控え、一日三食規則正しく食べることが大切。外食は一日一食まで、できるだけカロリーを表示している店を利用するようにしましょう。

例えば、野菜の多いハンバーガーは300キロカロリー程度ですが、これにコーラとポテトをつけると900キロカロリーにもなっています。サイドメニューはサラダかお茶、ドレッシングもノンオイルと、少しでも工夫すれば、ファストフード店を利用しても大丈夫です。秋から冬にかけて血糖値が上がるのは、運動不足や食べ過ぎが原因とされます。特に出雲は雪が多いので、こたつでごろごろして、果物やお菓子を食べる生活をしがちです。富有柿を植えているお家が多いですが、一つで一日の果物摂

取量と同じ80キロカロリーもあります。たくさん採れたらおすそ分けしましょう。お餅も切り餅一つでご飯一杯分のカロリーがあり、食べすぎには注意が必要。また、道が凍っていなかったら、暖かい恰好をして外を歩くようにし、ダンベルやラジオ体操など、部屋の中でも体を動かすように工夫しましょう。「飽食と運動不足肥満呼ぶ」も一杯いい体はせいっぱい、これを肝に銘じて、糖尿病予防に努めていただくようお願いいたします。

講演「古代出雲は医薬・看護発祥の地」

島根大学名誉教授・特任教授 **小林 祥泰**



島根大学名誉教授・特任教授、古農、島根県小豆郡小豆町出身。島根大学医学部卒業。島根大学名誉教授、島根県立小豆病院院長。島根県立小豆病院名誉院長。島根県立小豆病院名誉院長。島根県立小豆病院名誉院長。

われわれの祖先は長い間、厳しい環境で生きてきました。そのため、体内の血糖値を上げやすくすることによって飢餓を乗り越えるという生存戦略が生まれ、飽食の時代を迎えた今、それが糖尿病の原因となっています。わが国最初の糖尿病患者は、平安時代の権力者、藤原道長と言われます。「こ

の世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」と権勢を誇った人ですが、多くの人が飢えに苦しむ中、いかに恵まれた生活をしていたかが分かります。これからお話しするのは、糖尿病のなかった古事記の時代のお話です。出雲大社の主祭神、大国主命は「医薬の神様」とされます。古事記に大国主命が皮を剥がれた因幡の白ウサギを、蒲の穂を使って治す話があります。これは漢方から見ても理にかなっています。大国主命は海の彼方からやって来た少彦名命と協力して国づくりを行います。この神様は古代中国から先端の医療知識を携えてやって来た渡来人だったと思います。古事記には、もう一つ医療に関するエピソードが出てきます。大国主命が瀕死の大やけどを負った時、蚌貝比売命と蛤貝比売命が、貝殻を粉にし、貝の身をすり潰したものを練り合わせて体に塗りつけて蘇らせます。キチン・キトサンの研究会が解析すると、これはまさに浸出液と炎症を抑える人工皮膚の原理に合ったものだそうです。このことから、私はこの二柱の女神を「看護の神様」と名付けて、もともと

つと広めていこうと思っています。女神は、御本殿の脇の「天前社」に祀られています。

また、わが国最古の医学書「大同類聚方」に記された薬のうち、百を超える圧倒的多数が出雲由来だとされています。大国主命が処方したという薬が、出雲神話ゆかりの奴奈川神社（新潟県）や諏訪大社（長野県）に伝えられているのも興味深い。「出雲国風土記」にも、他の風土記と比べて非常に多くの薬が記されています。

出雲市の四隅突出型墳丘墓から出土した謎の注口土器は、トリカブトを減毒して漢方薬にするためのものだという説もあります。古代出雲がわが国における医療の先進地だったことは間違いないと思います。

守田 美和

出雲大社ブルーライトアップ実行委員長
島根大学医学部助教



医療の神様である大国主命の元、開催出来たことはとても意味あることだと感じています。今回のイベントをきっかけに少しでも多くの方に糖尿病について興味を持っていただき、また、知識を深めていただく事ができたら嬉しいです。

活躍する卒業生 板華子さん ラフティングで世界を目指す

2014年10月にブラジルで開催されたラフティング世界選手権(女子・4人制)で、日本のチームが強豪の欧米勢を制し、開催国のブラジルに次いで2位に輝きました。チームの一員である板華子さんは島根大学のOG。その板さんに競技や仕事にかける思いをお聞きしました。

板 華子 / 1989年生まれ。鳥取県出身。鳥取大学在学中に探検部でラフティングを始める。2011年島根大学法文学部社会文化学科福祉社会コースに編入。2013年4月ラフティングチーム「THE RIVER FACE」加入。社会福祉法人三好やまなみ会にて社会福祉士として勤務。

ラフティングと仕事を通じ、 地域に貢献したい

ラフティングとは、ゴムボートに乗りパドルを操って激流を下るアウトドア・スポーツ。競技としてのラフティングは主に4種目に分かれており、それぞれでスピードを競います。板さんは、徳島県吉野川を拠点とし、日本女子代表として世界選手権でも活躍しているラフティングチーム「ザ・リバーフェイス」に所属。2013年より世界大会に出場しています。

「ラフティングは大学時代に始めましたが、『ザ・リバーフェイス』に入るまでは迷いもありました。他のメンバーはラフティングに関わる仕事をしているのですが、福祉の仕事に就いている私は、競技にかける時間が相対的に少なく、体格的にも恵まれた方ではないので続けられるのかと不安で、メンバーの一員になることよりも、

競技活動を継続することがむしろ大変ですね(板さん)

島根大学で福祉を学び、現在は共同生活援助や就労継続支援事業に携わりながら競技に取り組む板さんにとって、大切にしているのは、限られた時間でどれだけ集中できるかということ。「ラフティングをすることで、健康管理も意識でき、仕事とのメリハリも付けられていると思います」と語ってくれました。

2014年の世界選手権では海外の強豪を破り総合2位を獲得。「2艇が同時にスタートする『ヘッドトゥーヘッド』という短距離種目では、先行したチームが断然有利。それにも関わらず、後続の私たちのチームが抜いて勝つことができました。世界に誇れるレースを体感したことで、もつとこのチームで良いレースがしたいと強く感じました」とブラジル大会を振り返ります。

2017年にはホームグラウンドとしている吉野川で、日本初の世界選手権が開かれます。「普段応援してくれている人たちと喜びを共有できる貴重な大会。それに、世界一になったら自分の





2014年にブラジルのイグアスで開催された世界選手権。(上)500m以内の短距離で競う「スプリント」レース。(右)レース後の表彰式。1位ブラジル、2位日本、3位スロバキア。



発信力を高めることができ、福祉のことを理解してもらおうきっかけになるかもしれない。そのためにも頑張りたいです」(板さん) 応援してくれる人たち、そして地域のために、チームの仲間とともに世界一を目指して、日々の厳しい練習に取り組み続けます。

〈一問一答〉

競技におけるご自身の役割や大学時代のことについてお答えいただきました。

Q. どのような練習をしていますか？

週6日、早朝から2〜3時間練習しています。ラフティングは、ヘッドトゥーヘッド、スプリント、ダウンリバー、スラロームの4種目で競うので、日によって練習する種目を絞り、短時間でも集中して取り組めるようにしています。



ダム湖での静水練習。このダム湖や吉野川で日々の練習を行っている。

Q. チームでのポジションは？

6人乗りのボートで右の真ん中という位置で漕いでいます。回転の軸になったり、前の2人が操船しているときにはエンジン役になったり、様々な状況に対応できる体力が要求されるポジションです。

他にチーム内で気をつけているのは、声掛けをすること。「頑張ろうー」や「ありがとう」など、明るく活気が出るような雰囲気づくりを心がけています。

Q. ラフティングの魅力は？

自然が相手なので、同じ川でもいつも同じコンディションというわけではありません。雨が降り水位が増えれば、川の流れは変わります。その中で常にチームメンバーと意思統一を図る必要があります。川が、多角的な視野も必要です。川の流れに逆らうのではなく、速いコースを読み、流れに沿って下る。その時の自然との一体感が何よりの魅力ですね。

Q. 福祉の道に入ったきっかけは？

就職活動で自分のやりたいことに向き合っている時に、曾祖父が亡くなった経験から、高齢者が住み慣れた地域でその人らしく過ごせることに貢献したいと考えるようになりました。

地域福祉が全国的にも有名な松江で福祉を学びたいと思い、島根大学に編入。実際に松江市の社会福祉協議会で行った実習は貴重な経験となりました。



職場で終礼時に行うミーティングの様子。

Q. 大学での思い出は？

昔、実習中に「難しくしているのは

支援者だ」と言われたことがあり、それが今でも心に残っています。マイナスやネガティブな部分だけを捉えるから「難しい」と感じるのだと気づかされました。今は、共同生活援助や就労継続支援事業で相談に乗ったり健康管理をしたりしていますが、精神障がいのある方は日によって大きく状態が異なることがあります。その度に、常にポジティブな部分に目を向けるようにしています。

Q. 今後の夢は？

2017年に吉野川で行われるラフティングの世界選手権で1位になること。ただ、それは自分の中では通過点です。競技で培った体力やコミュニケーション能力を生かしながら、高齢の方、障がいのある方、病気のある方、誰もがその人らしく暮らしているような地域を作ることが人生の大きな目標です。

Q. 在学生に向けたメッセージをお願いします。

私も何をしたらいいのか分からず悩む時期がありました。焦らずに自分のやりたいことを明確にすれば、出会うべき人には出会え、助けてくれる人も必ず現れます。やりたいことをはつきりさせることが、将来を切り開くための近道だと思います。



やる気を引き出す体育の授業で スポーツの楽しさを実感することが 生涯スポーツに親しむ土台になる

「できる」「上手い」が評価に繋がりがちな体育・運動部活動。児童・生徒のやる気を引き出すことが重要と語る伊藤教授の取り組みを伺いました。

教育学部 健康・スポーツ教育講座 教授

いとう とよひこ
伊藤 豊彦

学生時代、バレーボールの選手として活躍。燃え尽き症候群などを見るうちに、教える相手の心や意欲への理解を痛感したことが、スポーツ心理学に関心を持つ動機になりました。



**優劣が分かりやすい体育の授業で、
結果だけでなく努力や頑張りを評価する仕組みづくりを**

伊藤教授の研究は、「体育・スポーツにおける効果的で適切な指導の在り方」を探ることがテーマ。小学生から高校生を対象に、体育の授業や運動部活動において、やる気が高まる、あるいは低下するメカニズムや、教師・親・仲間などのやる気におよぼす影響などを明らかにし、効果的で適切な指導を行うための研究で、スポーツ心理学の領域になる。

体育ができない子にとって、結果だけで評価される授業はとても苦痛なもの。一方で、一生懸命努力してできなかったことができた時の達成感は大きく、しかもクラスの皆が成功の目撃者になるわけで、その喜びは格別である。また、スポーツは仲間との協力が不可欠で、協調性や思いやりの心も育まれる。「結果だけで子どもを評価するのはどうなのか？人と比べるより昨日の自分と比べ、どれだけがんばったかを評価する仕組みづくりが、これからは重要なのです」（伊藤）

少子高齢化が急速に進み、体力の増進や健康寿命を伸ばすために、生涯スポーツの役割は、ますます大きくなっている。それだけに、最初に関わる体育の指導者が適切な指導を行えば、その後のスポーツへの関わりにも大きな影響を与える。

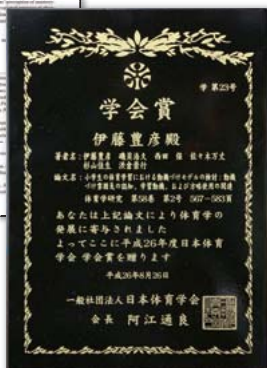
そこで伊藤教授は、体育の授業へのやる気を高める指導の在り方について研究を重ね、論文を発表し、平成26年度日本体育学会「学会賞」を受賞した。小中学生を対象にアンケートを実施し、分析・研究した論文では、努力や進歩を重視し、皆で一緒に助け合う環境を整えて、成績志向を抑制することで、子どものやる気を高めることができる」と語られている。

**大学院の開設により教育現場に生向く研究で、
研究で得たことを具現化していく**

伊藤教授の研究は、地域の学校

の先生や児童・生徒など、多くの

体育学研究(日本体育学会)に掲載された論文「小学生の体育学習における動機づけモデルの検討:動機づけ雰囲気認知、学習動機、および方略使用の関連」で「学会賞」を受賞。



運動を楽しむ子どもたち(島大ビビットひろば:ビビスポでの1コマ)。



研究のテーマである「スポーツ心理学」に関する著書も多数。適切かつ効果的な指導を行うための有益な情報を広く一般に提供している。

注目キーワード

文部科学省が公表した「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)報告書(私たちは未来から「スポーツ」を託されている〜新しい時代にふさわしいコーチング〜)」では、科学的な指導内容や方法の導入、生徒の意欲や自主性、自発的活動の促進などが求められている。それはスポーツ心理学が大いに貢献できる領域で、今後の指導者育成に役立つと思われる。

【新しい時代にふさわしい「コーチング」】

方々の協力によって成り立っている。研究成果は著書や論文、教員免許状更新講習、各種講習会などを通じて披露されている。

現在、伊藤教授は、平成28年度に開設する当大学の教職大学院の準備に奔走中だ。「大学院では現場での実習に多くの時間を割き、より実践的な内容にして、教育現場でのリーダーを養成していきま

す。私も院生と共に、地域の現場に出向くことが増えるのではないかと期待しています。現場を見ることで、研究で得たことを具体的に

に実行する手だてが考えられると
思うからです」(伊藤)

今後、体育・スポーツの指導者を
目指す学生たちには、自らの経験
に基づく技術指導に走るだけでな
く、科学的な知識や技能を活用
し、運動やスポーツの楽しさを伝
え、やる気を引き出して欲しい。
そして、発達段階に応じた長期的
視野を持って、子どもの全人格的
な発達に貢献できる指導者に育っ
て欲しいと語る。心技体が備わっ
た指導者育成のサポートこそが、
伊藤教授の使命である。

地域医療の拠点として 山陰エリアの呼吸器疾患に 立ち向かう

呼吸器内科の専門医として、島根県の医療レベルの
底上げに尽力する磯部教授にお話を伺いました。

医学部
内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 教授

いそべ たけし
磯部 威



高齢化が進む日本の中でも、島根県の高齢化率はトップクラスです。高齢患者に対する最適な治療に関わる情報を発信することが責務だと感じています。

地方大学の使命として広く適性医療の提供を

磯部教授は専門である呼吸器・

臨床腫瘍学の分野で、地方大学としての地域貢献をミッションとして、様々な取り組みを推進してきた。

呼吸器疾患、中でも肺がん患者は、全国的に一貫して高い率で増加しており、その対策は急務となつてい

る。磯部教授が挙げる山陰エリアでのがん医療の課題は「全エリアにおける^{*}医療の均てん化」「高齢化への対応」「がん薬物療法専門医のキャ

リアアップ」「地域における初期・後期研修医のがん教育」。

特に専門知識を有する人材の育成と診療連携は、適性医療の提供という観点からも重視している。大学を核とし、地域の基幹病院を中継して街の開業医まで連携が図られれば、患者にとっては遠方通院が不要になり、居住地に左右されず

適正な医療が受けられる。そこで

役立てられるのがICT(情報通信技術)。同意した県内患者の医療情報が共有できる「まめネット」、医学部みらい棟4階に備えられた県

内31施設を結ぶテレビ会議システムなどを活用することで可能性が広がった。島根大学医学部ではこの会議システムを、医療施設への支援や情報共有だけでなく、がんプロフェッショナルの養成にも活用している。

また、肺がん以上に高いレベルで患者数が増加しているCOPD(慢性閉塞性肺疾患)については、疾病予知予防研究プロジェクトセンターとして、山間部も含むエリア全域の自治体や開業医との協力体制を構築して、疫学調査を進めている。JAしまねが持つ車載型CT検診車も早期診断のために活躍中だ。

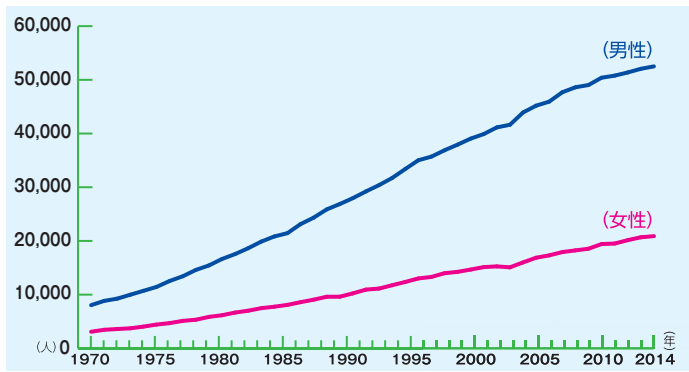
全国に注目される高齢者機能評価システム

適性医療という概念はまた、患者個人の状態に適性かどうかにも当てはまる。がんの治療技術は近年、飛躍的に進歩した。その結果として、高齢者のがん患者に対して

従来通りの画一的な治療を行うことは、必ずしも正解とは言えなくなっている。年齢や体力、病状の進み具合などを考慮して最適な治療方針を定めることは、患者の生活



■日本の肺がん死亡者数の推移



※人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)より

定期的に開催している患者と家族のためのセミナー。



内科学講座のロゴ。

「山陰がん認定医療スタッフ」の育成により専門知識の普及を図る。



肺がんやCOPDの早期発見に活躍するCT検診車(JALしまね所有)。

注目キーワード

都市部や山間部、また大都市圏や地方など、患者の住む地域に左右されず、皆が等しく高いレベルの診断と医療が受けられるようになること。高齢化と大都市への人口集中が進む現代の日本では、大きな課題とされている。特にがんについては、5年生存率ではつきりと地域格差がデータとして示されるが、これは検診による早期発見の機会に差があることも要因とされる。

※ 医療の均てん化

取り組みの特筆すべきポイントは、全ての情報が電子カルテ上で完結する点で、島根大学附属病院医療情報部の協力を得て実現した。

病院ではまた、専従の問診担当看護師も配置している。こうした総合的なシステム化は日本でも初めての試みであり、国立がんセンターから見学に訪れるなど、全国的にも注目されている。

そこで磯部教授と津端助教が中心となり、AMED(日本医療研究開発機構)の支援を受けて進めているのが「SMOG1501」と名付けられた研究。65歳以上の肺がん患者を対象に、簡便な問診票を用いて機能評価を行い、手術や抗がん剤による副作用との関連を調査するシステムづくりだ。この

常により約でいっばいの状況だ。ゆくゆくは前述の、みらい棟のテレビ会議システムを活用した市民公開講座、教育学部と連携した小・中学生向けのがん教育も視野に入れている。

の質を向上させることにつながる。「高齢のがん患者さんをどのように評価し、どのように治療していくか、エビデンス(治療効果の根拠)を創出し、具体的なガイドラインを作成することが必要なです」(磯部)

そして治療の選択肢が広がれば、患者にも知識が必要とされる。そこで磯部教授は、「がんメディカルカフェ」と題した個別の悩み相談の場や、患者とその家族を対象にしたセミナーを定期的に開催している。いずれも無料で利用できることもあって非常に反響が大きく、相談会は常に予約でいっぱい状況だ。ゆくゆくは



多様な人間に関わる ユニバーサルデザインの 新しい可能性を探る

今後の本格的な高齢社会に向けて、ますます重要視される「ユニバーサルデザイン」。その考え方と実践手法について、田中特任教授に伺いました。

総合理工学研究科
建築・生産設計工学科 特任教授

たなか なおと
田中 直人



学生たちには机上論でなく、生きた生活者を対象にした実験をさせています。現場でのフィールドワークの重要性を理解し、配慮すべき課題に気づき、真摯に取り組んでもらいたいです。

「全ての人に安全快適な環境を」 生活すべてが研究テーマ

ユニバーサルデザインの第一人者・田中特任教授の研究テーマは、多様な人間の特性を考慮した建築・都市環境の計画やデザイン。一言で言うところ、人間に焦点を当てた研究だ。「これまでの建築や都市環境のデザインは、マジョリティ（＝多数の人）に合わせた特性で創られており、それが標準化されたり法律の基準になることも多かった。しかしこれからは、本格的な高齢社会やグローバル化による国際的な交流等を考慮することが重要になってきます」（田中）その研究対象は、子どもから高齢者、健常者から障がい者、移動制約者から情報障がい者まで多様な人間に関わる住宅や公共空間、さらにはファッションまで幅広い。「これからのユニバーサル社会においては、特定の障がい者の問題としてではなく、全ての人

にとって安全・快適な環境を創るためのデザインが求められます。それを学生たちと一緒に、実験を通して調査します」（田中）

その代表例が、大型ショッピングモールにおけるユニバーサルデザインのプロジェクトだ。アンケートやヒアリングの回答を集約することで、より多くの人の要望を捉え、場合によっては実物大模型（モックアップ）を用意。障がい者実際に試してもらい、その使い勝手を人間工学的に検証する。例えば人工肛門や人工膀胱を保有するオストメイトの不自由を解消するトイレや、音を聞いたり物に触れることで視覚障がい者が周りの状況を判断できる、五感を活用したユニバーサルサインなど。誰もが「楽しく、美しく、気持ちよく」過ごせる人間環境づくりとは何か、学生に現場を見て学ばせている。

島根県の特性を生かした ユニバーサルデザインを発信したい

方に参加していただくなど、机上論でなく、追求する。



色分けやピクトグラムで分かりやすくデザインされたトイレ。空間的に分かりやすいよう、入口は大きくするなどの工夫がなされている。



ユニバーサルデザインの開発現場。障がい者本人の意見はもちろん、行政や民間、設計者や建築者などが意見を出し合い進めていく。



実物大模型(モックアップ)を使った実験検証。実際に障がいをお持ちの生きた生活者を対象とした実験を通して、より安全で快適な使い勝手を

注目キーワード

【「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の違い】

よく混同されがちな、バリアフリーとユニバーサルデザイン。バリアフリーは、障がいによりもたらされるバリア(障壁)に対処するという考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインは、初めから全ての人が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。いずれも「人に対するやさしさや思いやり」という目標は共通していると言える。

活を守りつつ、互いにメリットの
ある街づくり対策も必要となる。
さらに、田中特任教授が注目す
るのは、島根県の高齢者の多さ。

今後は地域の方と一緒に、より
良い街づくりを進めたいと語る
田中特任教授。今後の活動に注
目である。

「こうべUD広場」「奄美海洋展
示館」など、これまで地域での街
づくりに参加してきた田
中特任教授。島根県ならではの
課題として「観光資源の活用と
高齢社会」を挙げる。

例えば島根県には数多くの神
社があり、外国人も多数観光に
訪れるが、日本語が分からなく
ても見ただけで直感的に内容を
理解できるようなサイン環境の
整備等はどうしたらいいのか。ま
た、観光地付近の住民の日常生

それを逆手に取り、誰もが暮ら
しやすいユニバーサルデザインのモ
デルを確立できたらと考えてい
る。「老人ホームをつくるだけが
高齢者対策ではない。高齢者の
食習慣や生活環境をどうしてい
くのか。高齢者になっても楽しい
ことが続けられたり、仲間がいた
り、社会貢献できるなど理想的
な暮らしを実現するためにはど
うしたらいいのか、具体的な対策
を島根県だけでなく世界に目を
向けて発信していきたい」(田中)



『宇宙の未知粒子「暗黒物質」を探る』をテーマに市民講演会を開催。

市民講演会『幽霊素粒子「ニュートリノ」が変化した!?』の新聞記事(2015年1月20日付け・山陰中央新報)



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」大学COC事業
島根大学での各プロジェクトセンターの活動について毎号紹介します

究極の物理法則を探る

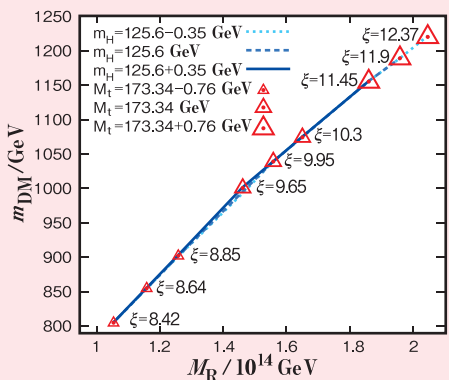
ヒッグス・初期宇宙プロジェクトセンター

スイスのCERN(欧州原子核研究機構)で行われているLHC(大型ハドロン衝突型加速器)実験が2012年に発見したヒッグス粒子によって、素粒子の物理法則を記述する標準模型と呼ばれる理論の正しさが検証されました。しかし残念ながら、私たちが自然のすべてを理解するためには、標準模型では不完全であることも知られています。

本プロジェクトセンターでは、このヒッグス粒子を鍵として理論的研究を行っています。ヒッグス粒子の性質を明らかにする新しい理論が初期宇宙の現象を記述する可能性を探り、宇宙の謎を解き明かすことにもまた同時に取り組んでいます。本プロジェクトリーダーの波場直之教授は、ニュートリノの極微量質量がニュートリノとのみ湯川相互作用する新しいヒッグス場の真空期待値の小ささに起源を持つニュートリノフィリック・ヒッグス模型を提唱しました。

本プロジェクトセンターでは、いかにして標準模型を超えた究極の物理法則へアプローチできるか、日々追究を続けていきます。

ヒッグス場によってインフレーションが説明可能である右巻きニュートリノと暗黒物質の質量パラメータ領域



2015年のノーベル物理学賞は、ニュートリノにわずかながら質量があることが検証されたことが受賞へつながりました。今回、私が提唱した「ニュートリノフィリック・ヒッグス模型」は、我々の宇宙が物質ばかりで反物質が少ない理由を、宇宙初期の新しいバリオン非対称性生成のメカニズムによって説明できる可能性も示唆しています。さらに、LHCやILC(国際リニアコライダー)といった加速器実験におけるレプトンのフレーバーを破った崩壊過程という標準模型では絶対に現れない現象を検証できる可能性があります。



ヒッグス・初期宇宙プロジェクトセンター長
島根大学 総合理工学研究科
教授 波場直之



松江市廻原1号墳を調査する学生たち。

出雲の地より日本の歴史を読み解く

古代出雲プロジェクトセンター

古代出雲プロジェクトセンターは、学内の教員に加えて、島根県立古代出雲歴史博物館・出雲弥生の森博物館・長崎大学・国立歴史民俗博物館の研究者11名からなり、古代出雲を中心とする地域の歴史解明を主な目的としています。

本学は古代には出雲と呼ばれた地域にあり、奈良時代の地誌『出雲国風土記』が残っているという地の利を生かして、考古学・文献学・地質学の共同研究を行っています。その中で、松江市廻原1号墳が出雲最後の古墳の一つであることや、隠岐諸島（隠岐の島町）では、これまで知られていなかった約16,000年前に遡る黒曜石の原産地遺跡を発見しました。

考古学と地質学との学際的研究が特徴の本プロジェクトセンターでは、隠岐産の黒曜石研究に火山岩解析手法を取り入れて、「島根発となる新しい先史時代黒曜石区分図」を完成しつつあります。古代出雲を中心とした研究は、社会に向けても大きなインパクトがあり、島根大学の文系の特色ある研究として全国的にも注目されています。

古代出雲プロジェクトセンター長
島根大学 法文学部
教授 大橋 泰夫



考古学的フィールド調査として、学生とともに山陰各地で古墳の発掘調査、隠岐諸島でも先史時代の黒曜石原産地を解明するために、踏査や発掘調査をしています。さらに、島根大学附属図書館でも所蔵している『出雲風土記抄』写本などの文献調査も行っています。

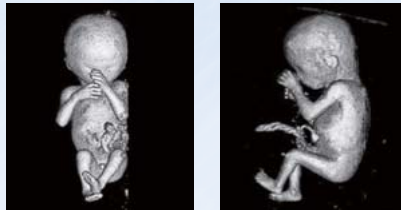
研究成果の公開については、COC事業として島根大学ミュージアムとも連携して市民向けに講演会を開催。大学が開いている古代出雲文化フォーラムにも積極的に関わり、学内外に向けて情報発信をしています。ぜひ市民の皆さんにもこうした機会を利用して、古代の歴史に関心を深めていただきたいと思います。



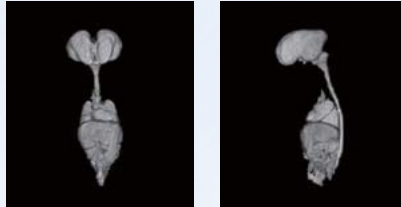
市民講座の様子。



胚子とよばれる時期に大まかな身体の形ができる。受精後5週と7週の胚子。



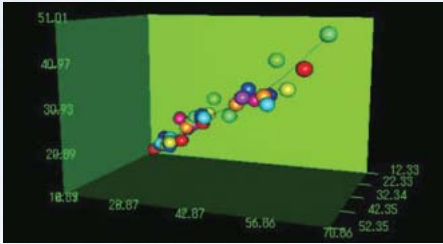
体表



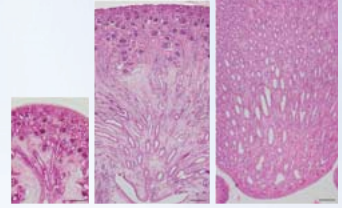
臓器

正面像 側面像

MRI画像を立体再構築した胎児の全身像と内臓と、成長する内臓の基準値を表したグラフの例。



胎児とよばれる時期から乳幼児期までに臓器のしくみができる。顕微鏡で見た3・5・7カ月の腎臓の断面。上の赤い点は尿のろ過器、下の管の断面は尿の通路。



健康な次世代を創る

先天異常総合解析プロジェクトセンター

生まれた時に身体にある異常（後になつてから見つかるものも含めて）を先天異常といいますが、精子と卵子が合体すると（受精）、3週間から8週間くらいまでに顔や手足など大まかな身体の形ができます（胚子期）。そのあと胎児とよばれる時期から生後数年までの間に、様々な種類の細胞が生まれ、きれいに組み合わさってしくみ（臓器）ができ、一人で生きていける身体となります。

生まれた後に病気になると全く同じように、親から受けついで遺伝と食べ物などの環境が複雑に関わり、胚子期にも、また臓器ができているときにも病気が起こります。そして、その病気の跡が生まれた時に手や足や臓器に残るのが先天異常なのです。

また、大人になつてから生活習慣病などになる素質が生まれる前にできることも分かってきました。しかし、生まれた後の病気については医学がめざましく発展しているのに対して、先天異常が発生するメカニズムの研究はとても遅れています。

先天異常総合解析プロジェクト

トセンターでは、「健康な次世代を創る」ことを目指し、30年以上出雲で先天異常研究を続けて、現在日本先天異常学会理事長を務める大谷教授を中心に、学内の数学の先生や学外・海外の先生とも連携。先天異常の原因の解明や診断法・治療法の開発などに取り組み、世界的にもユニークな研究を展開・発信しています。



先天異常総合解析プロジェクトセンター長
島根大学 医学部
教授 大谷 浩

目で確認できる形の異常が、顕微鏡で見える細胞の数や配置の異常でどのように説明できるのか、そもそも多くの臓器がどのように調和してできているのか、数学の力も活用して新たな視点を開拓しています。一方、葉酸の摂取で脳や脊髄の先天異常が明らかに減ることなどの情報を、広く市民の皆さまにお知らせしていくことも大切な役割と考えています。

記念すべき第1回大会で全国1位を獲得 島根大学医学部サークルが日頃の成果を発揮

日本救急医学会が開催した全国医学生CPR選手権大会に、島根大学の医学部サークル「SCOP(スコップ)」が出場し、成人CPR部門で見事に第1位を獲得しました。

全国医学生CPR選手権 2015年に初めて開催された大会は、全国の医学部学生的心肺蘇生技能向上を目的に、分けて予選を行い、勝ち抜いた上位校が決勝へと進みます。競技は1校につき5名が出場。シミュレータ(モデル人形)を用いた胸骨圧迫と人工呼吸の実技のほか、決勝では筆記試験も加わります。

8月29日に行われた中国・四国ブロックの予選では、島根大学は全部門で1位を飾り、堂々の決勝進出を決定。そして10月17日、東京医科大学病院を会場に15校で争われた

決勝で、見事に成人CPR部門の1位を獲得しました。

島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターには、医療技術の向上に有益な最新のシミュレータが揃っており、これらを用いて訓練を重ねてきたSCOPのメンバーは、自信を持って本番に臨むことができましたと言います。今後は、初の全国大会で得た貴重な経験を後輩に伝えていきます。



8月29日に行われた中国・四国ブロックの予選では、島根大学は全部門で1位を飾り、堂々の決勝進出を決定。そして10月17日、東京医科大学病院を会場に15校で争われた

予選出場メンバー	岩高田 綿佐	野倉川 引藤	野倉川 綿佐	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤
	岩高田 綿佐	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤
決勝出場メンバー	岩高田 綿佐	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤
	岩高田 綿佐	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤	野倉川 引藤

(以上医学部5年生)

出場メンバーの声

今回の出場メンバーは全員同級生でしたので、お互いに遠慮も必要なく、日頃培ったチームワークが存分に生かされたのが結果に繋がりました。



岩野 佑介さん

私は決勝からの出場でしたが、大学を代表して全国大会に出場したという貴重な経験を後輩たちに伝えていきたいです。



善浪 佑理さん

CPRは医療従事者であれば当然の技術ですが、今後は一般の方にも、CPRに関する知識や技術を広めていければと思います。



田川 隆太さん

結果に満足してしまわないよう、実際の患者さんに対して行う行為だということを常に念頭に置いて、今後も技術の向上に努めます。



三浦 和樹さん

島大の多彩な活動を
チョイスしてお伝えします

しまだいい

トピックス



松江工業高等専門学校と 包括的連携に関する協定を締結

地域社会の発展と人材育成に向け連携

10月8日、服部学長、井上校長のほか関係者が出席して、本学と松江工業高等専門学校との包括的連携に関する協定の締結式を行いました。

協定は、教育・研究・地域貢

献・産学連携・国際交流・学生および教職員の交流において協力し、より緊密な連携を推進していくものです。

学長からは、「これを機に連携をますます深め、あらゆる場面で力を合わせて島根県のために尽くしていく」と挨拶があり、井上校長からは「この協定で技術者教育の一層の推進、専門分野や学生交流でのさらなる連携が可能となる」とお言葉をいただきました。

本協定締結により、島根大学の自治体や団体、企業等の連携協定機関は計26機関となります。

生物資源科学部創設20周年・本庄総合農場開場50周年 附属演習林創設50周年記念式典

記念式典・祝賀会にて節目を祝う

10月10日、「くびきメッセ」で記念式典・祝賀会を開催しました。式典は130名以上が出席し、澤学部長、服部学長、島根県農林水産部曾田次長様およびJA



しまね本
田副組合
長様の挨拶に続き、
島根県立

大学・本田学長様や本学教育・学生支援担当理事荒瀬榮副学長から特別講演をいただきました。式典の間には、会場内に展示した学部・農場・演習林の紹介パネルを前に歓談する場面や、サクラを材料とした食材を試食する光景も見られました。続く記念祝賀会では、80名を超える出席者と会食が催され、盛況のうちに終了しました。

総合理工学部創設20周年記念式典・講演会・祝賀会

国立大学初の理学と工学の融合から20周年

10月3日、総合理工学部創設20周年の記念式典・講演会・祝賀会を行いました。本学部は

国立大学で初めての理工融合学部として設立され、理学と工学の総合・融合による新たな科学・技術の開拓、基礎科学から先端応用技術までバランスのとれた教育を目指してきました。式典には約120名が出席し、



「激化する海底鉱物資源の争奪合戦―世界動向と日本の取り組み―」、「地方創成に結びつけたい島根の歴史・風土」と題した2つの講演を行い、続く祝賀会では終始和やかに学部創設20周年を祝いました。

紹介されている皆さんの顔が生き生きと輝いているので私も嬉しくなりました。
(島根県出雲市・60代女性)

大学を身近に感じられます。多くの人材を輩出し、社会を豊かにしてください。
(島根県松江市・60代男性)

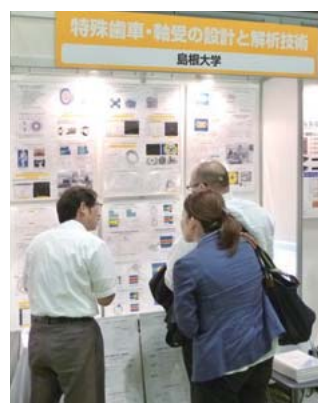
ミニ学術植物園「みのりの小道」、学生市民交流ハウス、神西附属農場も紹介してほしいです。
(島根県出雲市・40代男性)

第5回おた研究・開発フェア出展

学術分野と産業界の技術交流・展示会で技術をPR

10月8日・9日、ものづくりのまち「大田区」で第5回おた研究・開発フェアが開催されました。90の団体・企業の展示と、最新の研究開発成果や新製品、新技術を紹介。来場者は1,865名と過去最多でした。

本学からは、総合理工学研究科機械設計研究室が出展し、産業ロボットや航空機用「特殊歯車装置・軸受の設計と解析技術」の研究成果の展示、「島根大学における機械要素設計に関



する先端研究内容の紹介」というテーマでプレゼンテーションをしました。ブースには60名以上が来場し、約14の企業から展示資料の請求があり、多くの企業に本学の技術をPRできました。

学生・教職員が松江祭囃行列に参加

晴天の下揃いの法被で地域交流

10月18日、松江市の伝統行事、松江祭囃行列に学生16名・教職員15名が参加しました。揃いの法被に身を包み、

また松江城天守閣が国宝に指定されたこともあり、例年より多い22台の囃が市内を練り歩きました。

見事なバチさばきで「囃」と呼ばれる太鼓を打ち鳴らし、篠笛で「シャギリ」という祭囃子の音を響かせるなど、沿道の声援を浴びながら祭りを楽しみました。今年は、囃行列100周年、



本学の参加は今回で3回目。学生の参加が地域の活性化に繋がるだけでなく、学生自身のコミュニケーション能力向上を図るためにも、今後も「松江祭囃行列」に参加していきます。

留学生見学旅行in邑南町

伝統文化に触れて相互理解を

9月5日〜8日、留学生の日本文化理解を深めるため、邑南町の協力のもと、第6回「留学生見学旅行in邑南町」を実施し、今回は16名の留学生とサポート日本人学生3名が

参加しました。訪問した矢上高校では邑南町の素材を使ったピザ作り体験や、英語ダイバート大会を開催。夜は出羽神楽団の石見神楽を見物し、衣装や楽器の体験会も催されました。邑南国際交流まつりでは、やまんばん太鼓、田植え囃子といった邑南

伝統芸能を地元参加者とともに鑑賞。また、2泊3日の農家民泊で昔ながらの田舎文化を満喫しました。

邑南町の伝統芸能に触れ、日本文化の奥深さを体感するとともに、地域の方々と相互理解を深める貴重な体験となりました。

読者の声

広報しまだいVol.26に寄せられた声をお届けします。

研究・地域貢献事業紹介を楽しく読みました。異分野の考え方を知るのには重要ですね。(奈良県奈良市・70代男性)

文系のイメージを持っていましたが、技術開発研究も盛んなことが分かりました。(島根県松江市・70代男性)

▼ 第9回ホームカミングデーを開催

活躍する卒業生を招き母校との絆を深める

松江キャンパスでは、10月11日に第9回ホームカミングデーを開催しました。当日は約100名の同窓生や一般の方々を迎え、服部学長と江口同窓会連合会長の挨拶の後、学生活動報告会が行われ、学生生活活動報告会が行われました。

そして今回のホームカミングデーでは3年ぶりとなる演奏会を催しました。出演いただいたのは、本学教育学部の特任



講師でありソプラノ歌手として活躍しておられる狩野麻実さん、また同じく本学教育学部の嘱託講師でありピアノ奏者として活躍しておられる梶川邦子さんのお二人。曲の間には、狩野さんの母校に対する思いやご自身の経験などもお話いただきました。

卒業生の華やかな活躍ぶりに触れることで、懐かしい想いと共に母校への愛着を再確認しました。

曲目

1. 音楽に寄せて(シューベルト作曲)
2. 約束(ロッシェニ作曲)
3. からたちの花(山田耕筰作曲)
4. 歌劇「ロタリオ」より
小舟は海に戯れる(ヘンデル作曲)
5. 落葉松(小林秀雄作曲)



島根大学 教育学部
特任講師
狩野 麻実

これからも、演奏を通して音楽の奥深さや素晴らしさを多くの方々に伝えていけるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っております。

聴いてくださった皆さまは、どのように感じてくださり、どの曲を気に入ってくださいましたでしょうか。また、ご感想などお聞かせいただくと嬉しいです。

大きな催しの中で演奏するという、慣れないシチュエーションでの大役に、躊躇する思いもありましたが、今はお引き受けして本当によかったと感じております。懐かしい思いで母校へ帰っていらっしやった先輩方に後輩の一人として、「島根大学で学んだ全てをお届けしたい」、「歌から島根大学を思い出していたください」という思いを込めてプログラミングしました。



学生活動報告会の様子。

これから受験する子どもたちのために、もう少し学生の声を届けてほしいです。
(島根県出雲市・50代女性)

字の大きさが読みやすくてよかった。もっと学生の話も聞きたいです。
(島根県仁多郡・10代男性)

頑張っている卒業生を載せていただきたいです。
(島根県松江市・50代女性)

異文化交流は「理解」すること 将来は日本語力を生かし 世界を巡る仕事に

ヨウ タクヤさん
(中国からの留学生)



大学進学を考えた時、異文化交流をしたいと思い、アニメが好きだったこともあり日本へ留学を決めました。島大では社会生活を送っている人々の心の規則性を研究する、社会心理学を専攻。日本語習得も目的の一つなので、日本語の勉強にも励んでいます。

日本に来て驚いたのは、日本の中華料理が中国のものと違ったことです。春巻きや酢豚は食べたことがありませんでしたし、日本の水餃子の皮のモチモチした食感もびっくりしました。これはとても面白い違いだと思います。

大学の長期休みを使い、韓国やカンボジア、マレーシアなどに旅行しました。違う国の文化に触れると驚くことも多々ありますが、理解しようとする姿勢が身に付いてきたと感じています。

世界旅行や海外ボランティア活動に関心があるので、将来は日本語力を生かして旅行ガイドや貿易関係の仕事に就きたいと考えています。



島大の夏季研修で韓国へ。友人やホストファミリーと観光。



留学生・留学体験者大集合!

海を越えた島大生

3週間の留学で 確かな成長を実感! 言語を超えた技術を習得

石毛 太陽さん
(カナダ「ウォータールー大学レニソン校」へ留学／
総合理工学部1年生)



高校時代、英語塾の先生がカナダ出身の方で、カナダ文化に興味を持ちました。留学したいという思いがあったので、島大の留学プログラムを利用してウォータールー大学で3週間、英会話や英語でのプレゼンテーションなどを学びました。

当初、南米やアジア地域出身者の英語は訛りがきつく、うまく聞き取れませんでした。時間をかけて交流



フレンドリーな教授と卒業式で記念撮影。

し、諦めずに会話することでコミュニケーションがとれるようになりました。

帰国後に受けたリスニング試験で英語が聞き取りやすくなっているのを実感。様々な国の訛りに慣れたことが良かったのだと思います。また、留学中に学んだプレゼンテーションやディスカッションの方法は、言語を問わず、これから役に立つ技術だと思います。短期間でしたが、とても貴重な体験ができたと感じています。

読者の声

「市民パスポート会員」は良い制度なので、もっと多くの人に知られたらいいと思います。
(島根県大田市・60代男性)

「島根学」を受講しました。島根の素晴らしさを若い人たちに伝えてほしいです。
(鳥取県米子市・70代女性)

常をご紹介 pus ステック! eck



大学祭 篇

島根大学の学生にとって最大のイベント、毎年恒例の大学祭が2015年10月、松江・出雲両キャンパスに分かれて行われました！今回は、趣向を凝らした企画とスキのない運営で大学祭を盛り上げた、両キャンパスの実行委員長をご紹介します！

地域とともに盛り上がる大学祭！

島根大学の大学祭は毎年10月に、松江・出雲の両キャンパスで開催されています。本年度は10月10日〜12日に松江キャンパスで「凧風祭」、17日18日に出雲キャンパスで「くえびこ祭」が開かれ、例年以上に活気あふれる賑わいを見せました。

大学祭は学生同士で盛り上がるだけではなく、地域の皆さんと交流を図り、大学への理解を深めてもらう大切な場でもあります。今回も両キャンパスで、多くの市民の方々の姿が見られました。ステージや模擬店、展示などで楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



01 松江キャンパス「凧風祭」

松江キャンパス「凧風祭」の今回のテーマは「笑顔満祭(えがおまんさい)」。

みんなが笑顔で楽しめる大学祭になるように、との思いが込められています。その実行委員長という大役を果たした渡辺里実さんに、今回の凧風祭についてクエスチョン！

Q 実行委員長になった経緯は？

先輩の推薦でしたが、これまでの実行委員長はずっと男子学生だったので、女性の私に個人的なメンバーをまとめるかドキドキでした。



第65回大学祭実行委員長
生物資源科学部2年生
渡辺 里実さん

Q どんな思いで臨みましたか？

今回は新しいことに取り組みたいと思って活動しました。恒例のライブをお笑いから音楽に変えたり、実行委員会のツイッターを設けて情報発信も行いました。

Q 今回の凧風祭で特に力を入れたポイントは？

地域への広がりを考え、学外の団体との連携を重視しました。松江商工会議所青年部が開催した「松江ラウンド」というスタンプラリーに凧風祭も組み込んでいただいたり、「まつえ若武者隊」という団体を呼んでデ

モンストレー ションや手裏 剣体験などを やってもらったりしました。 子どもに喜ば れましたね！

島大生の日 Cam キャンパ Ch



Q 来年度の実行委員長に期待することは？

「これからの大学祭は、今よりもっとオープンに！地域ともどんどん連携して人と人とのつながりを広げていかないといけないと思います。それとオリジナルのある企画も期待しています！」

Q 無事に終えた今の気持ちは？

「委員同士で異なる意見をまとめるのは大変でしたが、これまでよりも自分の視野が広がった気がします。また「言うべきことはきちんと言う」姿勢が身についたのも良かったと思います。」

02 出雲キャンパス「くえびご祭」

「LINK」つながる命の輪」という、医学部にふさわしいテーマで開催された出雲キャンパスの「くえびご祭」は、今回で40回目です。その節目となるくえびご祭を盛り上げた実行委員長、小澤千尋さんにも質問してみました！

Q 今回の見所はどのでしたか？

「プロレスのイベントに合わせ、リング上でAEDのデモンストレーションを行いました。また、一般の方にも訓練用の人形とAEDを用いた体験ができるようにしました。」

Q工夫した点はどこですか？

「出雲キャンパスは医学部だけでなく、医学部らしい企画を立てることが目標でした。AEDの体験講習も、一般の方がより多く集まる機会を生かし、こちらから積極的に働きかけることをねらったものです。その意味では、一人でも多くの方にAEDを体験してもらえたことは成功だったと思います。」

Q反省点はありますか？

「恥ずかしい話ですが、雨天対策の準備をうっかり忘れていました。実際は雨日とも晴れたので助かりましたが、日頃の行いが良かったおかげですね！」

Q 来年度の実行委員長に一言！

「くえびご祭の実行委員会は全部で13名の係長がいて、さらにその下にそれぞれのスタッフがいいます。他の部活やサークルとかかけ持ちの人も多いので、連携をとるのは大変ですが、だからと言って何でも一人で抱え込まないで、副委員長などにもどんどん助けてもらってください。後は医学部らしい、新しく楽しい企画をお願いします!!」



第40回くえびご祭実行委員長
医学部4年生 小澤 千尋さん



教えて！動画公開中
先輩が
高校生の方々の疑問に、先輩が
動画でお答えします。スマホをお持ちの方は、ぜひご覧ください！

【ココアル】
COCOAR
アプリをおとして、かざすだけ。
感動、体験、AR。

【COCOAR】とは、スマートフォンのカメラで、マーカールを認識することにより、動画、音楽、任意のWEBサイトなどをスマートフォンで閲覧することができる専用アプリです。

iOS「App Store」および
Android OS「Google Play」から
【cocoar】で検索してダウンロード(無料)



【COCOAR】を起動後、渡辺さんの顔写真にカメラをかざすと動画が再生されます！

【ご使用上の注意】●COCOARは、iPhone 4S以降(iOS7.x)、Android OS4.0以上～4.4以下が対象です。詳しくは各OSストアでご確認ください。(一部にご利用いただけない機種がございます)●パケット通信料はおお客様のご負担となります。必ず事前にご契約内容をご確認ください。●3G回線では動画再生に時間がかかる場合がございます。Wi-Fi環境下のご使用を推奨いたします。■COCOAR(ココアル)はスターティアラボの商標登録商品です。■iPhone®、iPad®、App Store®は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。■Android™、Google PlayはGoogle Inc.の商標または商標登録になります。



在校生とOBが和やかに交流

松江、出雲キャンパスでホームカミングデー

島根大学第9回ホームカミングデーが松江キャンパスで10月11日、出雲キャンパスでは同17日に開催されました。ホームカミングデーは各学部生や卒業生が交流をする同窓会企画。学生からの近況報告や著名な卒業生による講演などが行われました。

法文学部企画は第1部と第2部に分かれて実施。第1部では松江市の副市長の吉山治さん、隠岐島前高校教諭・中村怜詞さんら卒業生4人が講演しました。社会文化学科卒の中村さんは、東京都と島根県両方の教員採用試験に合格しながら、生徒の素直さや生活の豊かさにひかれ、島根での教員生活を決意。「教師として自分が常に評価される

点や生徒を育て未来に希望を創ることができると点にやりがいを感じている」と話しました。中村さんは、隠岐島前高校の高校教育魅力化事業に携わっており「地域とともにある学校づくり」をテーマに教育を行なっています。島前地域を盛り上げるため、卒業後に帰ってきて新しいビジネスをつくる人材を、学校教育を通して育てることが目標です。

また「海士町は『ないものはない』をキーワードに掲げていますが、逆に言えば生活に必要なものはすべてある町だ」と赴任地への思いを語り「教育を通して持続可能な地域づくりを实践していきたい」と今後の抱負を述べました。

第2部の懇親会はレインボープラザ（松江市学園1丁目）で行われ、参加者全員が30秒スピーチをするなど交流を深めました。参加者が円陣を組み、旧制松江高校寮歌「青春の歌」を熱唱、和やかに会を締めくくりました。参加した法文学部の学生（21）は「普段話す機会のない方と知り合うことができて良かった。意外なところでつながりを実感できた」と感想を語りました。

卒業生の中には、自分の出身地について知っている方もおられ、（学生プレス研究会・平等正裕）



青春の歌を熱唱する参加者たち＝松江市学園1丁目、レインボープラザ。

東京五輪の経済効果は島根県に来るか

大学生と雲南市住民ら「恵沢塾」で議論



東京五輪の経済効果などについて話し合う参加者たち。

員をはじめ地元の住民、市役所職員ら合わせて十数人が話し合いました。

「恵沢塾」はもともと地元の高校生を対象に政治経済を学んでもらうために開かれていました。今回は大学の講義をきっかけに学生が地元住民らと東京五輪の経済効果について一緒に考える機会にしようと、だんだん工房の協力で実現しました。

2020年の東京五輪の経済効果は島根県雲南市に来るのか、をテーマに議論する大学生の「恵沢塾」が10月17日、雲南市大東町の佐世だんだん工房で開かれました。島根大学の学生7人のほか地元選出の県議会議員、市議会議

員をはじめ地元の住民、市役所職員ら合わせて十数人が話し合いました。「恵沢塾」はもともと地元の高校生を対象に政治経済を学んでもらうために開かれていました。今回は大学の講義をきっかけに学生が地元住民らと東京五輪の経済効果について一緒に考える機会にしようと、だんだん工房の協力で実現しました。塾では「東京五輪の経済効果は島根にまでは及ばないだろう」が意見の大勢を占めました。「島根の文化を海外に売り込むことで観光客を呼び寄せられるのでは」「リオのオリンピックで予選敗退するような弱小チームを今のうちに応援し、東京五輪で来日したついでに島根に来てもらつては」など経済効果を自ら招き入れる方法を参加者が熱く語り

ました。

また、「島根大学の保護者懇談会の参加者を招き入れるツアーを実施しては」「入学式、卒業式に合わせて雲南フェアといった催しはできないか」などのアイデアも出されました。

学生代表として参加した大山

哲矢さん(生物資源科学部2年生)は「雲南市に行く前は、どう話が展開するか分からずとても不安でした。普段親しく話をすることができない人と議論でき有意義な時間でした」。参加した藤原一樹さん(同1年生)は「五輪を機に若者や観光客を少しでも雲南市に呼び込もうとする考えは参考になった」と話していました。(学生プレス研究会・新藤正春)

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを
守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、
世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

松江キャンパス

[アメリカンフットボール部]



チーム名は勇士を意味する「WARRIORS」。チームカラーは赤!

**カラダと心を鍛え
強いプレイをチームの力に**

揃いの赤ヘルメットをかぶり、鍛えられた体で果敢にタックル、のびたいかけ声が飛び交うアメリカンフットボール部。経験者が多いかと思いきや、9割は初心者。先輩やOBからの指導にも力が入っています。



声を出し合い作戦を立て、タッチダウンを狙う。

「1年生の頃は、みんな細い体をしていますが、空きコマに筋トレをしたり、たくさん食べてケガをしない体づくりをします」と副キャプテンの大江省吾さん(生物資源科学部3年生)は話します。アメリカンフットボールは「心技体」のスポーツ。まず体をつくり体力をつけ、個人、そしてチームプレイができるように、技にも磨きをかけていきます。また相手から強烈なタックルを受けることも想定して、精神面の強さも必要。持ち前の明るさとパワーを生かし、新チーム始動です!

出雲キャンパス

[卓球部]



新チームになり初大会に向けて、一致団結!

**集中力、洞察力を鍛え
一球一球に真剣勝負!**

9月から新チームとなった卓球部は現役部員17人、全体としては(OBメンバー、病院関係者等を含む)36人で週4回活動しています。「大学で卓球をはじめたきっかけは、将来、医師として仕事をするにあたっての体力づくり、そして部の雰囲気良かったからです」と話すのは、キャプテンの徳田暁拓さん(医学部3年生)。部員はとても仲が良く、緩急をつけた練習を



コツコツと練習を積み重ね、個々のプレイを磨いている。

「大学で卓球をはじめたきっかけは、将来、医師として仕事をするにあたっての体力づくり、そして部の雰囲気良かったからです」と話すのは、キャプテンの徳田暁拓さん(医学部3年生)。部員はとても仲が良く、緩急をつけた練習を

行っています。卓球は頭を使う競技でもあり、対戦相手との距離が近く、プレイ中の相手の行動から「相手が何を考えているのか?」「癖は何か?」などを読み取ることで、洞察力も鍛えられます。また、練習外では試験前などに勉強が分からなければ、先輩に教えてもらえることも、首席が数人いるため勉強面でも心強い卓球部です。

神話第六章、熱戦続く！選手たちにエールを！

昨年10月に開幕したTKbjリーグとして最後のシーズン。開幕戦となったホームでのパンビシャス奈良戦、次の金沢武士団戦は4連勝と波に乗ったものの、その後は僅差スコアでの熱戦が続く。一つでも上の順位でシーズンを終わらせ、統一リーグへつなげるために、全力の戦いを重ねるスサノオ戦士たち。ぜひ会場で彼らを後押しするような、熱い声援をよろしく願います。



#00 ジョシュ・デービス(F)



#2 澤岬 直人(PG)



#7 梅宮 学(SG)



#10 スクーター・ランダル(F)



#21 曳野 康久(SG)



#32 安部 潤(G)



#45 仲村 直人(SG)



#50 ウェイン・マーシャル(C)



#55 横尾 達泰(SG)



#88 山本 エドワード(PG)

島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先 島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成27年8月1日~平成27年10月31日にご寄附いただいた皆さま)
(五十音順・敬称略)

個人からのご寄附

稲生田 妙子	小橋 達也	正木 健一郎
岩堀 和夫	調枝 勝幸	松尾 寿
岩本 秀俊	外山 堅吉	松田 克己
内田 昭雄	永田 まち子	丸田 健一
北本 明子	福島 律子	吉岡 宏敏
熊澤 修	藤本 正昭	吉田 三枝子

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL:0852-32-6603(総務課)

ホームページ

http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

投稿の
お願い

投稿先

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

編集後記

あけましておめでとうございます。

年も明け心を新たに島根大学の様々な情報を発信してまいりますので、本年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて今号では、COCプラスや出雲大社でのイベントなど、盛りだくさんでお届けしました。その中でも、ラフティングで活躍されている板さんや、第9回ホームカミングデーでの演奏会の様子など、本学の卒業生の姿をピックアップしましたが、いかがでしたか。私自身が大学を卒業して2年近く経ちますが、母校の学生や同期たちが活躍している話を耳にすると、やはりうれしく感じ、頑張っている様子を見て学ぶことも多くあります。

広報しまだい27号を手にとっていただいた皆さまにも本学の卒業生たちの姿や、今まさに勉強やサークル活動などに励んでいる学生たちを頼もしく感じていただけるのではないのでしょうか。

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「トマトジュース3本セット」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成28年3月11日必着



古代出雲文化

Forum on Ancient Izumo Culture

フォーラムⅣ

古代出雲と九州、そして東アジア

歴史資料が語りはじめた出雲と九州のつながり

出雲と九州、日本列島の先史・古代文化を語るうえで重要な役割を担ったこの二つの地域は長い歳月にわたる交流の歴史を有しています。

では、遠く離れた二つの地域を結びつけたものは何だったのでしょうか？

今回のフォーラムでは、古代出雲と九州さらには海を越えた朝鮮半島も含めた東アジア的視点に立って古代における文化交流の実相についてスポットを当ててみます。

平成28年

3月5日(土)

13:00~16:30

九州国立博物館

1Fミュージアムホール
福岡県太宰府市石坂4-7-2



定員 300名 **参加費** 無料
参加には事前の申し込みが必要です。

主催：島根大学



福岡県嘉穂郡 王塚古墳



島根県出雲市 稲佐の浜

プログラム 司会 / 石原 美和 (フリーアナウンサー)

第1部 (13:00~15:20)

開場 服部 泰直 島根大学学長

司会 島谷 弘幸 九州国立博物館館長

基調講演 「古代における九州と出雲」

三輪 嘉六 前九州国立博物館館長

講演1 「先史東アジア海域交流の一側面

—朝鮮半島・北部九州・出雲をつなぐモノ—

平郡 達哉 島根大学法文学部准教授

講演2 「鉄、玉、貝の道でつなぐ九州と出雲」

河野 一隆 九州国立博物館企画課長・文化交流展示室長

講演3 「古代国家と出雲・九州

—東アジア世界のなかで—

大日方 克己 島根大学法文学部教授

第2部 (15:30~16:30)

特別講演 「大国主命は医薬の神」

小林 祥泰 前島根大学学長、島根大学名誉教授・特任教授

座談会

大日方 克己 島根大学法文学部教授

平郡 達哉 島根大学法文学部准教授

河野 一隆 九州国立博物館企画課長・文化交流展示室長

コーディネーター 會下 和宏 島根大学ミュージアム准教授

お問い合わせ先 ●

島根大学総務部総務課 TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6019 E-mail forum@office.shimane-u.ac.jp
(〒690-8504 島根県松江市西川津町1060)

<http://www.shimane-u.ac.jp>

島大

検索